

なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方に年4回のペースでお知らせする情報誌です。

VOL.59

発行 / 平成 26 年 1 月



漁業者によるアユの受精卵放流

調査情報

- ・ 海況情報 2
- ・ 25 年度 本県主要魚種の資源評価について 2
- ・ 夏季の高水温により、大型海藻が減少 3
- ・ 福岡のりの生産状況 4
- ・ 豊前海一粒かきの生産状況 4
- ・ 魚礁調査を実施 5
- ・ スイゼンジノリの増殖試験を実施 5

研究情報

- ・ 「関門海峡たこ」の生態について 6

なみなみニュース

- ・ 6 次産業化の取組を P R 7
- ・ 高田漁協が H P を開設 7
- ・ 磯焼け対策全国協議会が開催 8

普及だより

- ・ 糸島漁協女性部が料理教室を開催 8
- ・ おめで鯛まつりを開催 8

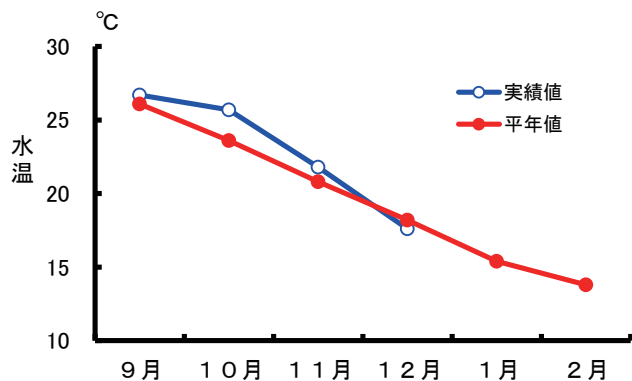
調査情報

海況情報

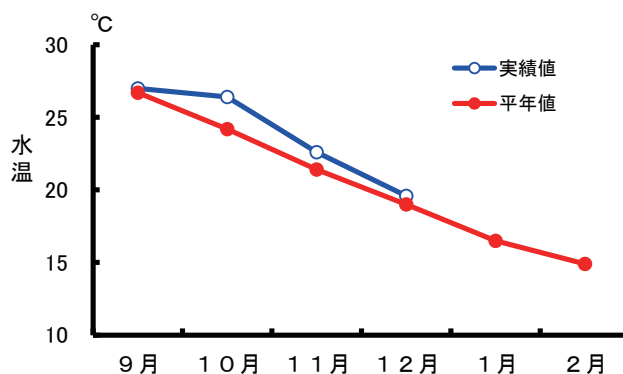
10～12月の表層水温は、筑前海では、沖合域・沿岸域とも、10月は甚だ高めで、11月はやや高め、12月は平年並みでした。

有明海では、10月から11月は平年並みで、12月はやや低めでした。

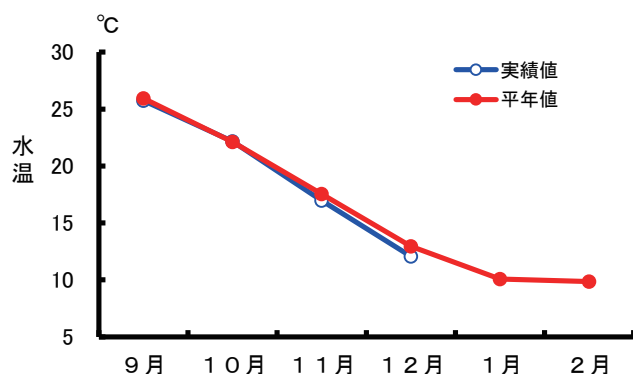
豊前海では、10月はやや高めで、11月はかなり高め、12月は平年並みでした。



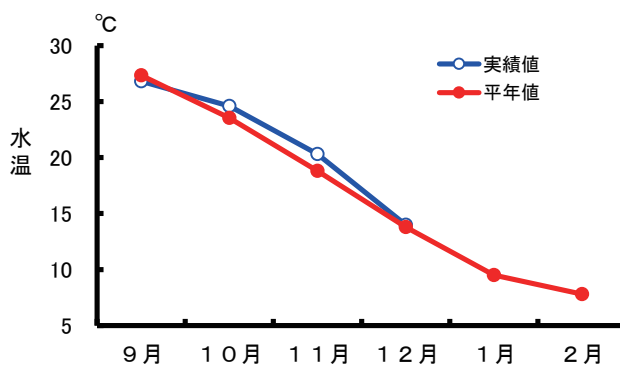
筑前海沖合域の表層水温



筑前海沿岸域の表層水温



有明海の表層水温



豊前海の表層水温

25年度 本県主要魚種の資源評価について

水産資源の管理を効果的に実施するためには、対象となる資源の現状を知る必要があります。このため、国や(独)水産総合研究センター、各県の連携のもと、重要魚種の水揚げ状況や漁獲物のサイズなどを調査し資源評価を行っています。25年度の結果がまとまりましたので、本県の主要魚種について紹介します。

ブリは、引き続き高位水準で推移しています。

サワラ（東シナ海系群）は、中位から高位となり、本県の好漁を裏付ける結果となっています。

マアジは中位ですが、沿岸で漁場が形成されておらず、本県では水揚げに繋がっていません。一方、マサバは、中位から低位に下がっており、本県のみならず、近隣県でも漁獲量が減少しています。最近、外国船の虎網による操業が問題視されており、東シナ海周辺国が連携して資源管理に取り組むことが求められています。

トラフグなど低位の魚種については、引き続き、小型魚の保護、禁漁期の設定など資源管理の取組が重要です。



市場に出荷された多数のサワラ

本県主要魚種の資源評価の結果

魚種	系群	資源水準	
		24年度	25年度
ブリ		高位	高位
マアジ	対馬暖流系群	中位	中位
マサバ	対馬暖流系群	中位	低位
マダイ	日本海西部・東シナ海系群	中位	中位
サワラ	東シナ海系群	中位	高位
	瀬戸内海系群	低位	低位
ヒラメ	日本海西部・東シナ海系群	中位	中位
トラフグ	日本海・東シナ海・瀬戸内海系群	低位	低位
ケンサキイカ	日本海・東シナ海系群	低位	低位

(研究部)

夏季の高水温により、大型海藻が減少

25年の夏は、筑前海沿岸で水温が平年より1℃以上高い状況が数ヶ月継続し、とくに8月は3℃以上高い漁場もありました。

8月下旬以降、アラメやツルアラメの葉や茎が大量に打ち上がっているとの情報が入り、すぐに全域調査を実施しました。その結果、福岡市から北九州市にかけての磯漁場でアラメやツルアラメの減少が多く見られました。近隣県の情報を収集したところ、西は長崎県、東は山口県や島根県でも同じような状況となっていました。

10月に九州北部を通過した3つの台風に伴う時化の影響もあり、藻場の減少がさらに拡大したところもみられましたが、水温が下がった11月以降、残ったアラメやツルアラメの茎や根から新たな葉や芽が再生しているのが確認されました。また、1月以降は前年に生まれた種からの発芽も観察されはじめています。

海藻が消失した漁場を再び豊かな藻場に回復させるためには、新たに生えてきたこれらの幼葉を大切に育成していくことが重要です。そのためには、ウニ類の駆除など植食性動物の密度管理が極めて重要になります。センターでは、これらの取組に対し積極的に支援していきます。



海岸に打ち上げられたアラメなどの大型海藻



葉体が消失し、茎だけが残ったアラメ

(研究部)

福岡のりの生産状況

本年度の有明海におけるノリの採苗（種付け）は、10月19日から開始されました。採苗作業は順調に進み、採苗3日後には概ね完了しました。10月に2度、台風の接近によって、養殖施設の破損や網に付いたノリ芽の消失などが心配されましたが、被害は小さく、胸をなで下ろしたところでした。

その後の育苗は順調に進み、11月11～16日に冷凍網の入庫作業が行われ、また、摘採は17日から開始されました。秋芽生産での摘採は計4～5回行われ、12月21日までで秋芽生産は終了しました。

病害は、あかぐされ病が11月14日に初認され、11月下旬の小潮に全域に拡大しました。研究所では、病害を抑制するため、病害の進行状況などの情報を切れ目なく発信しました。しかしながら、本年度は天候不順により、河口漁場を中心にあかぐされ病の被害が継続しました。なお、秋芽生産期における壺状菌病の発生はありませんでした。

今年度の秋芽生産結果は下表のとおりです。あかぐされ病の発生以降、漁業者による養殖管理により生産枚数は平均並みを確保することができましたが、病害の影響が大きかった漁場では品質が低下したため、生産金額は平均を7%下回る結果となりました。

秋芽ノリ生産実績			
	生産枚数(億枚)	生産金額(億円)	平均単価(円/枚)
平成25年度	3.8	36.3	9.6
過去5年平均	3.8	39.0	10.3

(有明海研究所)

豊前海一粒かきの生産状況

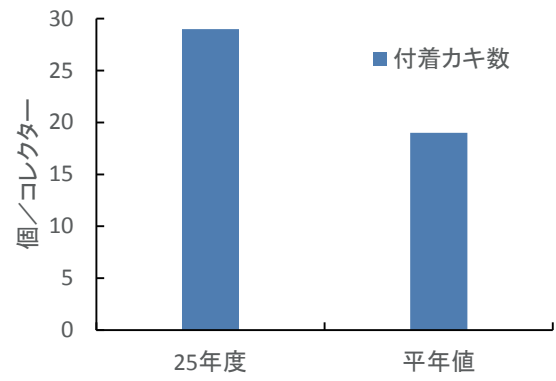
本年度のカキ養殖は、順調に経過し、例年どおり11月から収穫が行われています。昨年、クロダイによる食害の大きかった南部漁場では、研究所で開発した「束ね垂下」を導入したことによって、被害が大きく軽減され、収穫量が大幅に増加しています。

また、夏季は例年になく高水温となりましたが、心配されたカキのへい死も平年並みにとどまり、大きさはやや小振りながらも豊漁が見込まれています。

一方、カキ生産者で構成される豊前海区かき養殖研究会では、より安全で美味しいかきを消費者に提供できるよう、衛生講習会を開催し生産者の資質向上に努めています。また、地元で開催される秋のイベントでPR活動を行うとともに、2月以降に福岡市や沖縄でのPR活動を計画するなど、豊前海一粒かきのブランド化に取り組んでいます。



束ね垂下



収穫直前の1コレクターあたりのカキ数の比較

(豊前海研究所)

魚礁調査を実施

福岡県では、魚類の餌場及び育成場の造成を目的として魚礁設置事業を実施しています。

今回、25年3月に沈設した魚礁の調査を実施しました。魚礁は、福岡市西区玄界島の4km沖（水深40m）に沈設した鋼製魚礁（高さ6m）で、9月に潜水により魚礁の設置状況や集魚状況を調査しました。

魚礁は水平に着底しており、埋没や洗掘はみられず、破損、屈曲、網掛かり等もなく、状況は良好でした。

魚礁周辺で21種の魚類が観察され、カンパチの大群が魚礁を取り囲むように泳ぎまわる様子がみられました。また、マアジの群れやイシダイ、カワハギ、オニオコゼ、マダイなど漁業の対象となる魚もたくさん確認されました。

今回調査した魚礁は、設置からわずか半年を経過したのですが、多くの魚類が確認され、集魚効果が高いことがわかりました。



カンパチの大群



マアジの群れ

（研究部）

スイゼンジノリの増殖試験を実施

スイゼンジノリは、淡水性の単細胞性らん藻（シアノバクテリア）の一種で、1763年（江戸時代 宝暦13年）に朝倉市の黄金川（佐田川の支流）で養殖が開始されました。環境省のレッドデータブック絶滅危惧Ⅰ類に指定され、現在、朝倉市の黄金川が全国唯一の自生地ですが、スイゼンジノリ養殖の生産量は、近年、減少傾向にあります。

このため、研究所では、黄金川上流部の漁場において、雑草や泥の除去により流れを改善し、研究所で人工培養したスイゼンジノリを元種としてまき付け、増殖を促す実証実験に取り組んでいます。

研究所では、日本で唯一のスイゼンジノリ産地を絶やさないよう、試験研究に取り組んでいます。



スイゼンジノリが自生する黄金川



人工培養中のスイゼンジノリ

（内水面研究所）

研究情報

「関門海峡たこ」の生態について

関門海峡のマダコは、「関門海峡たこ」としてブランド化が進められていますが、その生態は不明な点が多く、適切な資源管理を実施していく上で課題となっています。

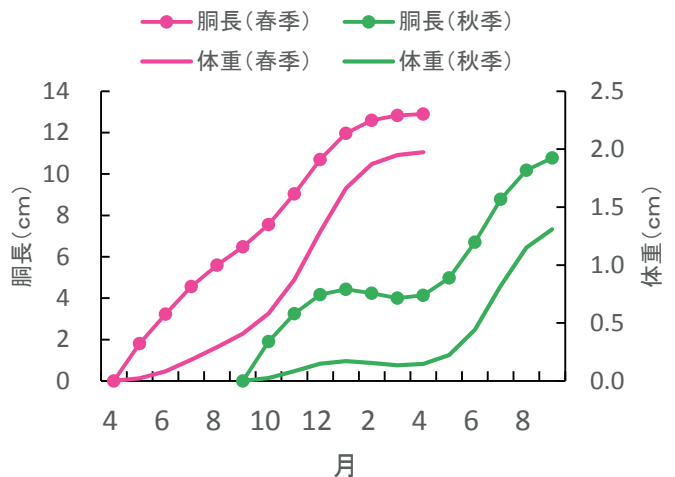
そこで、研究部では、この海域のマダコの生態について調査を行いました。

その結果、この海域のマダコには発生時期の異なる2つの群が存在することが明らかになり、3～5月に生まれた群は1年で胴長13cm、体重は2kgに成長しますが、9月に生まれた群は冬季に成長が停滞し、1年で胴長11cm、体重1.6kgと春期生まれの群に比べてやや小型であることがわかりました。さらに、いずれの群も寿命は1年で、概ね400gを超えた個体が産卵することが明らかになりました。

また、雌の成熟状況を調べたところ、3～5月と9月に産卵のピークがあり、成長からみた春・秋生まれの2群の存在を裏付ける結果となりました。

これらの研究成果を踏まえ、資源管理のため、体重400g未満のマダコの採捕を禁止する筑前海区漁業調整委員会指示が出されています。漁業者は、委員会指示を遵守するとともに、たこつぼを利用した産卵場を造成するなど資源管理に積極的に取り組んでいます。

「関門海峡たこ」はテレビや新聞でも取り上げられ、地元北九州市を中心に認知度も高まっています。研究部では、今後も漁業者による資源管理の取組を支援するとともに、出荷サイズの規格化や蓄養による安定出荷など、ブランド化の取組も支援していきます。



なみなみニュース

6次産業化の取組をPR

福岡県農林水産まつりが 11 月 16 ～ 17 日に開催されました。センターでは、「チリメンモンスターを探せ！」を体験イベントとして行いました。両日とも子供たちを中心に多くの人で賑わいました。

一方、今回のまつりでは、農林水産業の 6 次産業化に取り組む団体に試験販売の場の提供があり、水産関係では、糸島漁協船越支所と小呂島しまづくり協議会が参加しました。

糸島漁協船越支所は、糸島かきのオイル漬けなどの加工品を、小呂島しまづくり協議会は、やずフレークを試食販売しました。両団体とも、商品に対するお客さんの生の声が聞け、商品開発を進める上でとても参考になったとのことでした。



小川知事も来場



糸島漁協船越支所のカキ加工品



小呂島しまづくり協議会のやずフレーク

高田漁協がHPを開設

有明海区の高田漁業協同組合がホームページを開設しました。

ホームページでは、ノリができる過程をブログ形式で発信されており、ノリ養殖のことを知らない人でもわかるよう配慮されています。

また、漁業者の利便性を高めるため、センターが発信しているノリ養殖情報などにリンクが貼られています。センターからの情報をこのような形で役立てていただけると幸いです。



高田漁協のホームページ

磯焼け対策全国協議会が開催

藻場の減少は全国各地で深刻な問題となっており、水産庁では磯焼け対策の一つとして磯焼け全国協議会を開き、現状と対策について情報交換、意見交換を行っています。

本年度は、11月5～6日に農林水産省で開催され、国や県、民間企業、各地の漁業者等140名を越える参加がありました。

今回は、「沿岸藻場・磯焼けを取り巻く状況の変化」についての講演や各地の取組の事例報告などが行われ、今後の効果的な対策について活発な意見交換が行われました。

センターでは、今回得られた知見も活かし、本県の藻場の回復に取り組んでいきます。



磯焼け対策全国協議会

普及だより

糸島漁協女性部が料理教室を開催

糸島漁協女性部が10月17日に糸島市内の小学校でさかなっ子調理教室を開催しました。

今回は、小学6年生の子供たちがかまぼこづくりとアジのつみれ汁に挑戦しました。

かまぼこに使用したすり身には、全国の市町村別の水揚量で糸島市が日本一となったマダイを子供たちに知ってもらおうと糸島産のエソにマダイを加え、なんとも贅沢なかまぼこが出来上がっていました。

なお、このときの様子は、全漁連が運営する水産多面的機能発揮対策情報サイト [ひとつみ.jp](http://www.jfishery.com)の「海のゆりかご通信」にて詳細なレポートが掲載されています。



糸島漁協女性部による料理教室

おめで鯛まつりを開催

センターでは、11月23日にセンター研究施設を一般公開する「おめで鯛まつり」を開催しました。

当日は、家族連れを中心に1,000名を超える来場がありました。今回は、タッチングプールなどの人気コーナーに加え、「海の生き物らくがき」コーナーや「サザエタワーに挑戦」コーナーなど小さなお子様でも楽しめるようなイベントも実施しました。

来場者の方からは、「来年もまた来たい」などの声が聞かれ、楽しんでいただけたようでした。

なお、「海の生き物らくがき」などで皆さんが描かれた絵画は、水産海洋技術センターのホームページで公開しています。



子供たちが描いた海の生き物

<編集発行> 福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課

〒819-0165 福岡市西区今津1141番地1

TEL 092-806-5251 FAX 092-806-5223

センターホームページ <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/>

携帯電話対応 <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/>